

お知らせ

洗濯機による指の大ケガに注意!

洗濯・脱水槽が停止する前に洗濯物を取り出そうとして、衣服が指に絡まり指を損傷(時に切断)する事故が多発しています。ゆっくりとした回転でも大変危険ですので、洗濯物は洗濯・脱水槽が完全に停止してから取り出すようにしましょう。

また、脱水途中にフタを開けても15秒以内に停止しない場合や、脱水終了音が鳴っても停止しない場合は故障のおそれがありますので、速やかに購入販売店又は日本電気工業会へお問い合わせください。

☎ 03-35556-5888

守らう! 電波のルール

公共の電波を正しく使用するために、電波法というルールがあります。しかし、そのルールを守らない「不法無線局」から発射される不法な電波によるテレビ・ラジオの受信障害や消防・救急や航

空などの重要な無線通信への混信・妨害が後を絶ちません。また、インターネット取引などにより、日本では使用できない外国規格の違法な無線機器(技適マークが付いていないトランシーバーなど)が流通しています。これらは比較的容易に入手できるため、法令違反の認識がないまま使用し、混信妨害の原因者となるケースが増えています。

私たちの財産である電波の良好な利用環境を守るため、「不法無線局」をなくし、電波を正しく使いましょう。

※詳しくは、ホームページをご覧ください。

総務省信越総合通信局

★無線設備への混信・妨害及び違法な無線設備の情報に関するお問い合わせ

☎ 026-234-9976

★テレビ・ラジオなど放送の受信障害に関するお問い合わせ

☎ 026-234-9991

★その他、情報通信の行政相談に関するお問い合わせ

☎ 026-234-9961

相談会

秘密厳守
相談無料

◆日時/5月17日(日)、6月7日(日)
午後1時30分~午後6時

◆場所/老人憩の家
◆担当/心配事・結婚相談員

◆日時/6月7日(日)
午前10時~午後3時

◆場所/中央公民館
◆担当/原村人権擁護委員

◆日時/6月3日(水)
午前10時~午後3時

◆場所/富士見町役場
◆担当/岡谷年金事務所職員

◆日時/6月10日(水)
午前10時~正午

◆場所/下諏訪商工会議所会館2階
◆担当/関東信越税理士会諏訪支部の税理士
※事前に電話でお申し込みください。

◆日時/6月11日(木)
午前10時~午後3時

◆場所/諏訪地方事務所
◆担当/長野県交通事故相談所松本相談所の交通事故相談員

スポーツ

社会体育館

☎ 79-4922

少年バレーボール教室

○5/15金 ○5/22金

○5/29金 ○6/5金

少年バスケットボール教室

○5/16土 ○5/23土

○5/30土 ○6/13土

ファミリースポーツデー

○5/23土 ○6/13土

原村ゲートボール大会

○5/25日 午前8時

弓振農村広場

筋力アップ教室

○5/28日 午後7時30分

ソフトバレーボール大会

○6/6日 午後7時

カルチャー!

中央公民館

☎ 79-7940

エクセル入門

○5/18日 ○5/20日

○5/22日 ○5/25日

山歩き講座①

○5/20日

口語短歌入門教室

○5/26日 ○6/9日

あひるクラブ②

○5/27日 午前10時

原消防署

クラフトバッグ①

○6/11日

午後1時30分~午後7時

午後後のティータイム

○6/15日 午後2時



おらが村の足跡

教育課文化財係 79-7930 (直通)

原村では、縄文時代に次いで平安時代の遺跡が数多く見つかっています。そこで、今回は平安時代の家の跡などが見つかっている柏木地区にある裏長峰(うらながみね)遺跡から出土した「八稜鏡(はちりょうきょう)」をご紹介します。

家の跡から出土した八稜鏡は、今から約950年前



の青銅製の鏡です。鏡の周囲を8枚の花びらのように縁取った形から八稜鏡と呼ばれています。鏡の裏側には文様が描かれ、円の中央には「鈕(ちゆう)」と呼ばれる半円状の突起が付いています。これは鏡を持つ際に握み上げる部分であり、孔(あな)が開いていることから、紐(ひも)を通すことが出来ます。

この突起を挟むように瑞花(すいか)／豊年の兆しとなるめでたい花の文様が描かれています。

県内で見つかった八稜鏡は、46点ととても希少な品です。平安時代のの人々にとっても鏡

は非常に貴重なものでありました。この貴重な鏡が原村から出土したことは、この時代に有力者がこの原村にいたと考えられます。また、八稜鏡は諏訪神社上社・下社に宝器として伝世(でんせ)い)されていることから、諏訪大社となんらかの関係をもった有力者だったのかもしれないかもしれません。

現在、役場1階の村民ホールに、同じ遺跡から出土した平安時代の鉄で出来た比較的大きな全体の形が残っている鍬の刃先を合わせて展示してありますので、役場にお越しの際はぜひご覧ください。

COLUMN

村長きよしの 高原の風

Vol. 45



宮城県南三陸町で「災害ボランティア感謝のつどい」があり、参加しました。東日本大震災以後、宮城県内で唯一最後まで活動を続けていた災害ボランティアセンターを、この3月一杯で閉じ、以後は災害のつかない普通ボランティアセンターとして活動して行くにつき、今までの感謝の気持ちを表わそうと、町と町社協が企画、実施したものでした。

災害ボランティアセンターで特に目立ったのは、がれきの中から出て来た夥しい数の写真をきれいに洗い元どおりに復元して、関係者のもとに返す活動をしたことです。優しさの表われたたと思います。

町内で活動した約1万2000人に案内を送り、約1100人の参加だったといいますが、佐藤仁町長は感謝の辞で涙ぐみながら、避難所運営やがれき処理、産業支援等のボランティア活動を振り返り、

「絶望と悲嘆の底の住民をどんなにか励まし、希望と勇気を与えられたか知れない」と讃えられました。体験発表や子供たちのダンス、太鼓や合唱もあり、会場外は屋台の振る舞いで賑い、復興への意気高しと感じられました。

町内は全域が建設現場の様相で、地盤嵩上げの往来が激しく、高台移転用地の造成や高速道の建設も急ピッチです。本村は現在迄に4人の職員又はOBを南三陸町に派遣しています。遠隔の地でボランティア活動等は十分には出来ませんでしたので、せめてもの応援と少ない職員をやりくりしての復興支援ではありません。大津波による東北の被害は実に惨憺たるもので、南三陸町でも街地集落は潰滅、海浜も流滅、死者不明850人。惻隱の情が湧かない筈はなく、私ならどうするだろうと佐藤町長の苦勞を、身につまされて慮(おぼや)った次第です。

私たちは、原村に短期保養に来た人たちとも交流会をもちました。あんな程度で皆いたく感謝され恐縮でした。海の養殖場を見せて戴いたり、わかめの収穫の体験もしました。今後もうこうした交流は続けたいと思えました。